

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 02-174624

(43)Date of publication of application : 06.07.1990

(51)Int.Cl.

A01K 87/06  
A01K 87/08

(21)Application number : 63-330262

(71)Applicant : AAKISUTORIARU:KK

(22)Date of filing : 27.12.1988

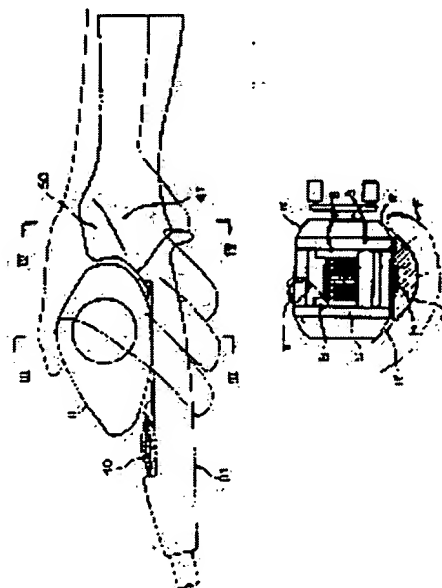
(72)Inventor : HANEDA HISATSUGU

## (54) REEL-SUPPORTING MEMBER AND ITS ASSEMBLY WITH GRIP

## (57)Abstract:

PURPOSE: To reduce fatigue in palming by providing the reel sheet on a reel- supporting member with the upper surface and the bottom surface upwardly curved toward the edges of both sides of the upper surface.

CONSTITUTION: When a palming is to be made, a shift from right hand to left one is made as shown in the figure. At this time, the palm of the left hand is assumed to hold the front end of a grip, the thumb is laid on the upper surface of a reel R, the little finger on the rear of the finger stopper, and the other fingers on the bottom surface of said reel R. These remaining fingers, as shown in the figure, are laid throughout the smoothly curved bottom surface 15 of a reel-supporting member 10. Thus, the palm and the fingers are brought, as a whole, into firm contact with the front end of the grip or the reel, the reel and the surface of the reel supporting member 10, resulting in favorable fit feeling of the holding hand, leading to little fatigue even with prolonged palming.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

5 PAGE BLANK (USPTO)

[Kind of final disposal of application other than  
the examiner's decision of rejection or  
application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japan Patent Office

PAGE BLANK (USPTO)

## ⑫ 公開特許公報(A) 平2-174624

⑤Int.Cl.<sup>5</sup>A 01 K 87/06  
87/08

識別記号

Z

庁内整理番号

6852-2B

⑬公開 平成2年(1990)7月6日

6852-2B

A 01 K 87/00

D

審査請求 有 請求項の数 6 (全11頁)

⑭発明の名称 リール支持部材及び該部材とグリップとのアセンブリ

⑮特 願 昭63-330262

⑯出 願 昭63(1988)12月27日

⑰発 明 者 羽 田 久 嗣 東京都渋谷区代官山町20-23 有限会社アーキストリアル  
内

⑱出 願 人 有限会社アーキストリアル 東京都渋谷区代官山町20-23

⑲代 理 人 弁理士 湯 浅 恭 三 外 4 名

## 明 細 書

## 1 [発明の名称]

リール支持部材及び該部材とグリップとの  
アセンブリ

## 2 [特許請求の範囲]

1. 手元端部のグリップと、該グリップの前端に  
設定され、リールを載置して支持するリールシ  
ート部及び該リールシート部の前端に設けられて、  
ロッド(竿)の後端を収納して保持するロッド保  
持部を有するリール支持部材とを備える形式の釣  
竿における、リール支持部材であって、

上記リールシート部が、グリップ前端に隣接し  
た部分から前方に延び、リールを支持する部分  
を含む上面と、横断面形状が、ほぼ中央部分で最  
低点となり、上記上面の両側縁に向けて上方に湾  
曲している底面を有しており、当該リールシート  
部が平面視においてその前後方向両端の幅狭部  
分とそれらの中間部分の幅広部分を有しており、  
全体的に前後方向で細長い楕円形状とされており、  
上記幅広部分においては、上記リールの底面をそ

の幅方向においてほぼ覆うようにされていること  
を特徴とするリール支持部材。

2. 手元端部のグリップと、該グリップの前端に  
設定され、リールを載置して支持するとともに前  
端にロッドの後端を受け入れて保持するロッド保  
持孔を有しているリール支持部材とを備える型式  
の釣竿における、リール支持部材であって、

上記リールがその底面に前後方向に延びる細長  
板状のリールフットを有する形式のものであって、  
上記リール支持部材の上面の幅方向ほぼ中央部分  
に、上記リールフットを受け入れる前後方向に延  
びる凹所を有しており、該凹所の後端壁には、上  
記リールフットの後端を受け入れ保持する前方に  
向けられたフット保持開口を有しており、同凹所  
の前方部分には、後端が上記フット保持開口に挿  
入された状態のリールフットの前分を固定するた  
めの固定手段を有しており、該固定手段は上記リ  
ール支持部材に上下に延びるように設けられた孔  
に挿入されるねじ部分と、該ねじ部分の上端に固  
定された円盤状ヘッド部分とを備える回転固定部

材と、上記ねじ部分とねじ係合するナット部材とを有しており、該回転固定手段はそのねじ部分をリール支持部材の上記孔に上方から挿入して上記ヘッド部分を介して回転することをにより、当該リール支持部材の所定の位置に設定された上記ナット部材にねじ係合して、当該ヘッド部分とリール支持部との間に、上記リールフットの前端部分を固定するようにしたことを特徴とするリール支持部材。

3. 上記固定部材のねじ部分を通すため、リール支持部材に設けられた貫通孔が平面視で前後方向に細長い孔とされており、上記ナット部材が該孔を貫通した下端部分にねじ係合するようにされており、該ナットは上記貫通孔の下端に接続するようにして、当該リール支持部材の底面に形成された凹所内に前後方向で摺動可能に設定されている特許請求の範囲第2項に記載のリール支持部材。

4. 上記固定手段が、更に、リールフットの上記前端部分と上記回転固定部材のヘッド部分との間に、前後方向で変位可能にして設定され、当該固

定部材が締め付けられたときに、上記ヘッド部分により上記前端部分に押圧され、該前端部分を固定するようにされた押圧部材を有することを特徴とする特許請求の範囲第2項に記載のリール支持部材。

5. 手元端部のグリップと、該グリップの前端に設定され、リールを載置して支持するとともに前端にロッドの後端を受け入れて保持するロッド保持孔を有しているリール支持部材とを備える型式の釣竿における、リール支持部材であって、

上記リールがその底面に前後方向に延びる細長板状のリールフットを有する形式のものであって、上記リール支持部材の上面の幅方向ほぼ中央部分に、上記リールフットを受け入れる前後方向に延びる凹所を有しており、該凹所の後端壁には、上記リールフットの後端を受け入れ保持する前方に向けられたフット保持開口を有しており、同凹所の前方部分には、後端が上記フット保持開口に挿入された状態のリールフットの前端を固定するための固定手段を有しており、該固定手段は上記リ

ール支持部材に上下に延びるように設けられた孔に挿入されるねじ部分と、該ねじ部分の上端に固定された円盤状ヘッド部分とを備える回転固定部材と、上記ねじ部分とねじ係合するナット部材とを有しており、該回転固定手段はそのねじ部分をリール支持部材の上記孔に上方から挿入して上記ヘッド部分を介して回転することをにより、当該リール支持部材の所定の位置に設定された上記ナット部材にねじ係合して、当該ヘッド部分とリール支持部との間に、上記リールフットの前端部分を固定するようにされており、

上記リール支持部材の上面に形成されたリールフットを受け入れるための凹所の底面が、上記リールフットの前端及び後端部分の底面と当接するようにほぼ同一平面内に設定された前方及び後方部分と、それら前方及び後方部分の間を更に凹ませて上記リールフットに係合しないようにした凹面部分とを有することを特徴とするリール支持部材。

6. 手元端部のグリップと、該グリップの前端に

設定され、リールを載置して支持するリールシート部及び該リールシート部の前端に設けられて、ロッド(竿)の後端を収納して保持するロッド保持部を有するリール支持部材とを備える形式の釣竿における、リール支持部材であって、

上記リールシート部が、グリップ前端に隣接した部分から前方に延び、リールを支持する部分を含む上面と、横断面形状が、ほぼ中央部分で最低点となり、上記上面の両側縁に向けて上方に湾曲している底面を有しており、当該リールシート部が平面視においてその前後方向両端の幅狭部分とそれらの中間部分の幅広部分とを有しており、全体的に前後方向で細長い楕円形状とされており、上記幅広部分においては、上記リールの底面をその幅方向においてほぼ覆うようにされており、

上記グリップの前端部分の側面形状が、当該釣竿を使用している人が、バーミングすなわち上記グリップの前端部分を握り、指を前方に延ばして親指でリールの上部を押圧し、他の指でリール支持部材及び当該リールの底面を押圧して、それら

を上下から握る状態において、掌におけるほぼ小指及び薬指の付け根部分から手首方向に延びる部分と当接するためほぼ垂直な側面部分から上方に向けて側部外方に延びる外方傾斜部分と、掌のほぼ中央部分と係合するため上記外方傾斜部分の前端縁から上方に向けて側部内方に延び当該リール支持部材の頂面に至る内方傾斜部分とを有していることを特徴とする釣竿のリール支持部材とグリップとのアセンブリ。

### 3 [発明の詳細な説明]

#### 技術分野

本発明は手元にグリップが設けられ、該グリップの先端に設定されてリールを載置して支持するリール支持部材を備える形式の釣竿における、リール支持部材並びにグリップに関する。

#### 技術的背景

上記形式の釣竿は、概ね、第6図ないし第9図に示されるような形態を有している。

すなわち、ロッド(竿)51の後端に、同ロッドのほぼ延長方向に延びるリール支持部材52が

で貫通するように設けられている貫通孔を下方から上方に通されるねじ部分58と、該ねじ部分の下端に固定されたヘッド部分59とからなる回転固定部材60と、上記貫通孔を貫通して上方に突出したねじ部分の上端とねじ係合している押圧部材61とを有しており、当該リールを設定する場合には、上記回転固定部材を回転して押圧部材61を上記フットの前端部分の上面に押圧して当該フット、従って、リールを固定する。

しかし、このような釣竿においては、次のような問題があった。

すなわち、釣竿を後方から前方に振って擬餌を飛ばすときには、第6図に示す如く右手でグリップを把持するが、飛ばした後に長時間その釣竿を持っているときは、当該グリップを持つ手を右手から左手に変えて、第9図に示すように持ち、バーミング状態(すなわち、左手でグリップの前端部分を把持するようにし、その指を全体的に前方に伸ばし、親指Tでリールの頂面を押え、他の指(普通は小指を除く指)をリール支持部材の底面

連結され、該支持部材の端部に横断面がほぼ円形、若しくは楕円形のグリップ53がとりつけられている。

リール支持部材52は、ほぼ断面円形のロッド状とされるが、その後端付近から中央部分にかけて上半分が切り取られたような、断面形状が半円形状とされており、その平坦な上面がリールRを載置し支持するためのリールシート部54とされている。リールRの下端には前後方向で伸長している細長板状のリールフットHが設けられており、これに対応して該フットを受け入れるための凹所55が上記リール支持部材の上面のほぼ中央に前後方向で伸長するように設けられている。

そして、当該リールRをリール支持部材52上に設定するに当たっては、上記凹所55の後端面に前方に向けて設けられたフット保持開口56に上記リールフットの後端を挿入し、前端を固定手段57によって上記凹所の底面に押圧して当該フット、従って、リールを固定している。固定手段は、上記凹所の前端付近にリール支持部材を上下方向

側に廻して、全体的にリールを包み込むようにして握る)状態にすることがある。

このバーミングは持つ手に神経を集中させ必要があるもので、それが長時間に及ぶとリールを握っているのが苦痛となり、神経集中がしにくくなる傾向にある。

このような問題に対して従来は、バーミングが長時間に及ぶために生じる肉体的疲労によるものであるとして、特別な解決手段は講じられてこなかった。

また、別の問題として、次の点が指摘されていた。

すなわち、大形の魚が掛かったとき、先端でロッド51を支持しているリール支持部材には、かなりの曲げモーメントがかかり、当該リール支持部材はそれが支持しているリールに向けて凸状に湾曲する。このため、上述のように当該リール支持部材の凹所内に設定されていたリールフットの後端がそれを収納していたフット保持開口56から外れ、当該リールがリール支持部材から外れ、場

合によっては同部材から弾きでる虞れがあった。

#### 発明の目的

本発明は、上記の如き問題点を解消した釣竿のリール支持部材並びに該部材とグリップとのアセンブリを提供することを目的とするものである。

#### 発明の構成並びに作用効果

すなわち本発明においては、

イ) まず、手元端部のグリップ(以下に述べる実施例においては参照番号12として示す)と、該グリップの前端に設定され、リール(R)を載置して支持するリールシート部(16)及び該リールシート部の前端に設けられて、ロッド(竿)の後端を収納して保持するロッド保持部(18)を有するリール支持部材(10)とを備える形式の釣竿における、リール支持部材(10)であって、

上記リールシート部(16)が、グリップ前端に隣接した部分から前方に延び、リールを支持する部分を含む上面(14)と、横断面形状が、ほぼ中央部分で最低点となり、上記上面(14)の両側縁に向けて上方に湾曲している底面(15)

なく、従って、当該釣竿に対する神経集中を維持することを出来る。

すなわち、本願発明者は上記の如き従来のリール支持部材において生じるパーミングの際の疲れの基本的原因が、次の点に有ることを突き止め、その原因除去を図ったものである。

上述の如く従来のリール支持部材は、その幅が比較的狭く、従って、このリール支持部材によってリールを載置支持した場合、当該リール支持部材がリールの底面中央部分を前後方向に延び、同底面よりも下方に突出した状態になるので、該底面並びにリール支持部材によって凹凸のある面が形成され、従って、その面に指を当接した場合、好適なフィット感が得られず、それにより、パーミングが長時間に及ぶと釣竿に対する神経集中が難しくなっていたのである。

上記本発明に係るリール支持部材を用いれば、上記の如くフィット感が非常に改善され、従って、従来支持部材のものが有していた上記の如き問題を解消することが出来るのである。

を有しており、当該リールシート部が平面視においてその前後方向両端の幅狭部分とそれらの中間部分の幅広部分とを有しており、全体的に前後方向で細長い楕円形状とされており、上記幅広部分においては、上記リールの底面をその幅方向においてほぼ置うようにされていることを特徴とするリール支持部材を提供する。

このリール支持部材は、後記ホ)において述べるグリップとともに用いられるが、これを前述したパーミングの状態を持つ場合には、以下に述べる実施例において参照する添付図面の第5図並びに第3図及び第4図に示したような状態となる。

これらの図面から分かるように、上記した本発明にかかるリール支持部材においては、親指(T)以外の、リール(R)の底面側に回される指(F)

は、当該リール支持部材(10)の滑らかな底面(15)に当たった状態で、当該リール(R)並びにリール支持部材(10)を支持することが出来るので、それらに対する左手のフィット感が優れ、パーミングの状態が長時間に及んでも、疲れが少

ロ) 本発明においては、上記リールがその底面に前後方向に延びる細長板状のリールフット(H)を有する形式のものに用いるリール支持部材(10)であって、

その上面(14)の幅方向はほぼ中央部分に、上記リールフット(H)を受け入れる前後方向に延びる凹所(28)を有しており、該凹所の後端壁には、上記リールフットの後端を受け入れる前方に向けられたフット保持開口(30)を有しており、同凹所的前方部分には、後端が上記フット保持開口(30)に挿入された状態のリールフットの前端部分を固定するための固定手段(32)を有しており、該固定手段は上記リール支持部材に上下に延びるように設けられた孔に挿入されるねじ部分(36)と、該ねじ部分の上端に固定された円盤状ヘッド部分(38)とを備える回転固定部材(40)と、上記ねじ部分とねじ係合するナット部材(42)とを有しており、該回転固定手段はそのねじ部分(42)をリール支持部材の上記孔に上方から挿入して上記ヘッド部分(38)を



介して回転することをにより、当該リール支持部材(10)の所定の位置に設定された上記ナット部材(42)にねじ係合して、当該ヘッド部分(38)とリールシート部(16)との間に、上記リールフットの前端部分を固定するようにしたことを特徴とするリール支持部材(10)を提供する。このリール支持部材においては、上記の如くリールフット(H)の前端を固定する手段として、ヘッド部分(38)とその下に連結したねじ部分(36)とからなる回転固定部材を用い、ねじ部分をリール支持部材に設けた孔の上方から下方に通し、当該ヘッド部分を手で回転して当該固定部材を固定するようにしている。従って、従来のものの如く回転固定部材をリール支持部材の下側から上方に通して、その下端にあるヘッド部材を手で回転して固定した場合のように、当該ヘッド部材を手で接触可能なように、リール支持部材の底面から下方に突出した状態に設定する必要がなく、従って、上記パーミング状態に入った場合に、左手の指が当該ヘッド部分に接触して上記神

従って、このリール支持部材においては、用いられるリールの底面に設けられるリールフット(H)の長さに応じて、当該固定部材を前後方向で変位して固定することが出来、従って、適正な固定を行うことが出来る。

ニ)上記ロで述べた固定手段が、更に、リールフットの前端部分と上記回転固定部材のヘッド部分との間に、前後方向で変位可能にして設定され、当該固定部材が締め付けられたときに、上記ヘッド部分により上記前端部分に押圧され、該前端部分を固定するようにされた押圧部材(44)を有することを特徴とするリール支持部材を提供する。

すなわち、このリール支持部材では、上記ハで述べた固定主手段とは異なり、その固定部材自体を前後に変位するのではなく、該固定部材とは別途に設けた押圧部材を用いており、これにより、リールフットの長さに応じた、適正な固定を可能としているのである。

ホ)本発明では、更に、上記ロで述べた如きリール支持部材であって、

経集中の支障となることがない。

すなわち、本発明者は、従来のリール支持部材において長時間におよぶパーミングを行った場合、その左手の指が上記固定手段のヘッド部分に接触することにより、その神経集中が妨げられて、疲労が生じることを突き止め、これを排除したのである。

ハ)また、本発明においては、上記ロで述べた上記固定部材のねじ部分を通すため、リール支持部材に設けられた貫通孔(34)が平面視で前後方向に細長い孔とされており、上記ナット部材

(42)が該孔を貫通した下端部分にねじ係合するようにされており、該ナットは上記貫通孔の下端に接続するようにして、当該リール支持部材の底面に形成された前後方向に細長い凹所(46)内に摺動可能に設定されているリール支持部材を提供する。

このリール支持部材では、それに設けられた貫通孔が上記の如き形状とされているため、固定部材(32)を前後方向で動かすことが出来る。

リール支持部材の上面に形成されたリールフットを受け入れるための凹所(28)の底面が、上記リールフットの前端及び後端部分の底面と当接するようにほぼ同一平面内に設定された前方及び後方部分(28')と、それら前方及び後方部分の間を更に凹ませて上記リールフットに係合しないようにした凹面部分(28'')とを有することを特徴とするリール支持部材を提供する。

従来のリール支持部材においては、リールフットを受け入れる凹所の底面が単一の平面内にあるようにされているため、大きな魚が掛かかり、当該リール支持部材に大きな曲げモーメントが掛かった場合、当該リール支持部材がリールに向けて凸状に湾曲し、このため、リールフットが曲げられて、その後端がその保持凹所から抜けて当該リールが外れる虞れがあったが、本発明に係るこのリール支持部材においては、上記の如き曲げモーメントがかかってもリールフットの中央部分はそれほど曲げられず、従って、それが外れるということを回避することが出来る。

ホ) 本発明においては、また、上記イに記載した如きリール支持部材とグリップとのアセンブリであって、

グリップの前端部分の側面形状が、当該釣竿を使用している人が、パーミングすなわち上記グリップの前端部分を握り、指を前方に延ばして親指でリールの上部を押圧し、他の指でリール支持部材及び当該リールの底面を押圧して、それらを上下から握る状態において、掌における小指及び薬指の付け根部分から手首方向に延びる部分(P1)に当接するためほぼ垂直な側面部分から上方に向けて側部外方に延びる外方傾斜部分(47)と、掌のほぼ中央部分(P2)と係合するため上記外方傾斜部分の前端縁(47)から上方に向けて側部内方に延び当該リール支持部材の頂面(48)に至る内方傾斜部分(50)とを有していることを特徴とする釣竿のリール支持部材とグリップとのアセンブリを提供する。

このアセンブリによれば、パーミングを行う際に、上述した従来のももの如く、リールとグリップ

後方向で細長い楕円形状をしている。上面14はほぼ平坦状とされているが、グリップとの隣接部分においてはリールRの後面の湾曲に適合するよう後方に向けて上方に湾曲している。また、当該リールシート部はその最大幅方向寸法が、ほぼ中央部分の最大肉厚寸法の約3倍程度とされており、リールの底面を、その幅方向において、ほぼ覆うようにされている。(ここで、リールの底面とは、リール支持部材の上記上面の方向を向いている実質的に下向きの面をいい、第3図に示す例においては、リールスプールベアリングB、Bを支持している支持板の外側面下縁によって画定される領域の面をいい、当該リールの両側のほぼ垂直な面部分の下縁から当該リールの底面15まで傾斜している面R'、R'は含まないものとする。また、該底面は当該リールの部品によって形成される実際の面である必要はなく、また、全体的に中実である必要はない。)グリップ連結部20はほぼ短円柱形でその底部にある指係止突起22を有している部分23と、該部分から後方に突出している

ブとの間において、左手の掌が比較的広い部分が当該釣竿のどの部分とも係合せず、フィット感が悪く、従って疲労しやすいといった欠点を解消することができる。

#### 実施例

以下、本発明を添付図面に示した実施例に基づき詳細に説明する。

第1図は、本発明に係るリール支持部材10と、それに連結されたグリップ12の要部を断面で示しており、第2図はその平面図を示している。

図示の通り、本発明に係るリール支持部材10はリールRを載置するための上面14、及び、横断面形状が幅方向中央部分で最低点となっており、上記上面15の両側縁に向けて上方に湾曲している底面を有するリールシート部16と、該リールシート部の前端に設けられた筒状のロッド保持部18と、同リールシート部の後端に設けられたグリップ連結部20とを有している。上記上面はグリップの前端に隣接した位置から前方に延びており、平面視において、すなわち第2図で見て、前

突起部分24とを有しており、これらはグリップに設けられた固定用孔26に圧入されて、当該リール支持部材にグリップ12に固定するようになっている。

第1図及び第3図から判るように、リールRはその底面に前後方向で伸長しているリールフットHを有しており、リールシート部の上面14の幅方向のほぼ中央部分に設けられた前後方向に延びている凹所28内に設定され、その後端H'が上記凹所の後端壁に前方を向くようにして設けられたフット保持開口30内に挿入され、また、その前端H'が、以下に述べる固定手段32によって固定されている。すなわち、該固定手段は、ボルト状の形態とされ、リールシート部16内に設けられた上下方向に延びている貫通孔34内に通されるねじ部36と、該ねじ部の上端に固定されたヘッド部38とを有する回転固定部材40と、上記孔34を貫通したねじ部の下端とねじ係合するナット部材42と、上記回転固定部材のヘッド部38と上記上面14との間に設定され、リールフット

トの前端H'を上から押圧する押圧部材44とから構成されている。ナット部材42はリールシート部16の底面内に設けられた凹所46内に設定され、該底面からは突出しないようにされている。上記固定部材40のヘッド部分38の上面及び側面にはセレーションが設けられており、ヘッド部38の上面のセレーションはベベルギアの如き形状を有している。押圧部材44は回転固定部材の40のねじ部分を通す貫通孔45を有しており、該貫通孔は前後方向で長くされており、当該回転固定部材40に対して相対的に前後方向で変位出来るようにしてある。また、該押圧部材の後端部分はその底面と、上記凹所28の底面との間にリールフットの前端部分H''を受け入れて挟むようになっている。更に、該押圧部材の上面はその中央部分とそれに続く後方部分がほぼ平坦状とされているのに対して、前方部分は前方に行くに従って次第に高くなる階段状とされている。これは、固定すべきリールフットの大きさに合わせて当該押圧部材を前後に変位して設定するとともに、回

転固定部材40を回転して締め付けた場合に、そのヘッド部分38の後端縁が適当な段の前向き段面に係合して、当該押圧部材が固定部材を締め付けた後に変位しにくいようにするためのものである。上記リールフットを受け入れる凹所28の底面は、上記リールフットの前端及び後端部分H'、H''と当接する同一平面内にある前後部分28'、28''と、それらの間にある凹面部分28'''とを有しており、該部分にはリールフットHが係合しないようにしてある。

上記グリップ13はその全体的形状が、ほぼ楕円形横断面の筒状とされているが、その前端部分の左側側面形状は、当該釣竿を使用している人が、バーミング（すなわち上記グリップの前端部分を握り指を前方に延ばして親指TでリールRの上部を押圧し、他の指Fでリールシート部材10及び当該グリップ12の底面を押圧して、それらを上下から握る状態）において、掌Pにおける小指の付け根部分から手首方向に延びる部分P1と当接するため、ほぼ垂直な側面部分から上方に向けて

側部外方に延びる外方傾斜部分47（第4図）と、掌のほぼ中央部分P2と係合するため上記外方傾斜部分の前端縁から上方に向けて側部内方に延び、当該グリップの前端中央部分で、それよりも後方の部分よりも高い位置に形成されたほぼ平坦な頂面48に至る内方傾斜部分50とを有しており、また、右側側面もそれと対称形とされている。図示のように、各側部の側部外方傾斜部分47と側部内方傾斜部分50とは上記頂面48の後端から前方下方に向かって傾斜する線52に沿って交わっている。

本発明の実施例に係る上記リール支持部材及びグリップは以上の如き構成を有するものであり、まず、リールを設定する場合には、リールRの底面に設けられたリールフットHをリールシート部の上面14に形成された凹所28内に設定し、その後端H'を同凹所の後端壁に形成されたフット保持開口30内に挿入する。そして、固定手段32の押圧部材44を前後方向において調節してリールフットの前端H''に当接した後、手で回転

固定部材40のヘッド部38を回転して当該回転固定部材を締め付け、押圧部材44をリールフットに押し付け、該リールフットの固定を行うことにより、当該リールの設定を行う。

また、バーミングを行う場合には、持つ手を第5図に示すように左手に持ち替える。図示のように、左手の掌はグリップの前端付近を把持するようにされており、親指はリールRの上面の上に、小指は指係止部分22の後側に、その他の指はリールの底面側に回す。これら他の指は、第3図に示すように、滑らかな曲面とされたリール支持部材の底面15に全体的に係合される。

本発明においては、第3図ないし第5図から分かるように、手の掌並びに指が全体的にリールのグリップの前端部分、リール、及びリール支持部材10の面に密着した状態となり、持つ手のフィット感に優れており、従って、バーミングが長時間に及んでも、従来のものに比べて、疲れが過かに少ない。

上記実施例においては、固定手段32として、

回転固定部材40の外に、前後方向で変位可能とした押圧部分44を用いているが、該押圧部材を用いずに、当該固定部材自体が前後方向で変位可能なものとして、該固定部材のヘッド部分38によってリールフットの前端を押圧固定するようにすることも出来る。この場合には、該固定部材40のねじ部分36を通す貫通孔34を平面視において前後方向で細長いものとし、それにより当該固定部材が変位できるようにする。

なお、第1図に示す実施例においては、リール支持部材に対して、ロッドを僅かに前方に傾斜した状態で設定し、当該ロッドの軸線の延長線が、リールR、リール支持部材10及びグリップ12の全体の重心位置付近を通るようにしてあり、それにより当該釣竿の操作を容易にしてある。

また、ロッド支持部18は、上述した偏平なリールシート部の形態に合わせて、その幅方向中央部分が最大肉厚でその両側縁に向けて次第に薄肉となるようにした、横断面形状がほぼ楕円若しくは楕円に近い変形状の偏平な形状とすることが好

るようにし、リールの底面の他の部分は該上面とは係合しないようにした方が、当該リールを安定して支持することが出来るという点で好ましい。

#### 4 [図面の簡単な説明]

第1図は、本発明に係るリール支持部材並びにそれに連結されたグリップの要部を断面で示した側面図、

第2図は、リールを取り外した状態における第1図の平面図、

第3図は、第5図におけるIII-III線に沿って見た断面図、

第4図は、第5図におけるIV-IV線に沿って見た断面図、

第5図は、第1図に示したリール支持部材及びグリップを用いた釣竿でバーミングしている状態を示している側面図、

第6図は、従来のリール支持部材並びにグリップを示す要部断面側面図、

第7図は、リールを取り外した第6図の平面図、

第8図は、第9図におけるII-IX線に沿って

ましい。すなわち、当該ロッド保持部に連結されるロッドが長尺なものである場合には、釣竿全体の重心がかなり前方の位置となる。この場合には、上述のバーミングの代わりに、左手を更に前方に変位し、ロッド保持部付近を把持することが好適な場合があり、そのような場合には上記の如き偏平な形態が左手にフィットし、良好な感度で疲れが少ない態様で把持することが出来るのである。従来のものにおいて、このような持ち方をする場合には、ほぼ円筒状に形成されているロッド保持部にスポンジ状のスリーブをかぶせて持つようにしている。しかし、このようなスリーブは3～8ミリの肉厚があるのが普通であり、魚が掛かった場合に、当該ロッドが下方にたわむと、リールからロッド先端まで延びている糸が上記スリーブに接触して、糸の巻きとりが困難になることがあるが、ロッド保持部を上記の如く偏平にすれば、そのような欠点を解消することが出来る。

また、リールはリールフットHにおいてのみリールシート部16の上面14（の凹所）と係合す

見た断面図であり、バーミング状態の指が一点鎖線で示してある図；

第9図は、第6図に示したリール支持部材及びグリップを用いた釣竿でバーミングしている状態を示している側面図；である。

10 --- リール支持部材；

12 --- グリップ；

14 --- 上面；

15 --- 底面；

16 --- リールシート部；

18 --- ロッド保持部；

30 --- フット保持開口；

32 --- 固定手段；

34 --- 貫通孔；

36 --- ねじ部分；

38 --- ヘッド部；

40 --- 回転固定部材；

42 --- ナット部材；

44 --- 押圧部材；

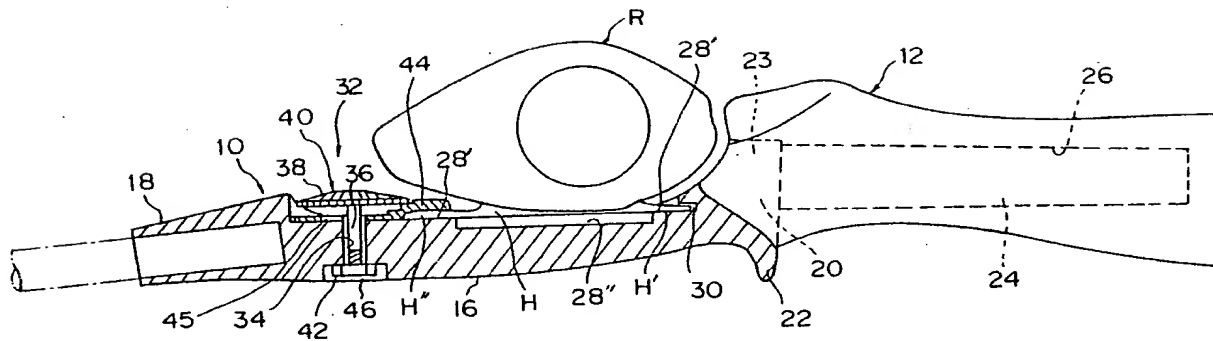
45 --- 貫通孔；

- 46 --- 凹所；  
 47 --- 外方傾斜部分；  
 48 --- 頂面；  
 50 --- 内方傾斜部分。

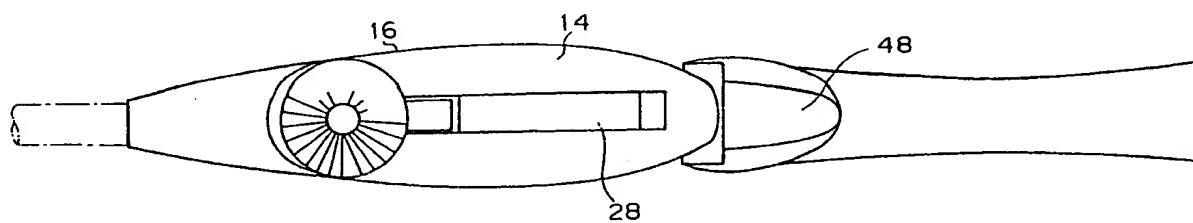
特許出願人 有限会社 アーキストリアル

代理人 弁理士 湯 浅 恭 三  
 (外 4 名)

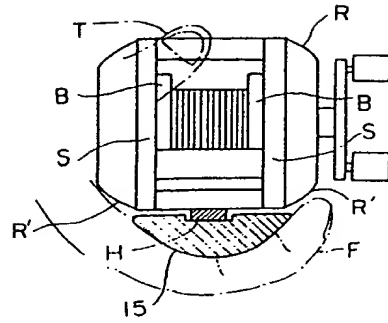
第 1 図



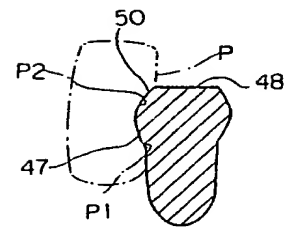
第 2 図



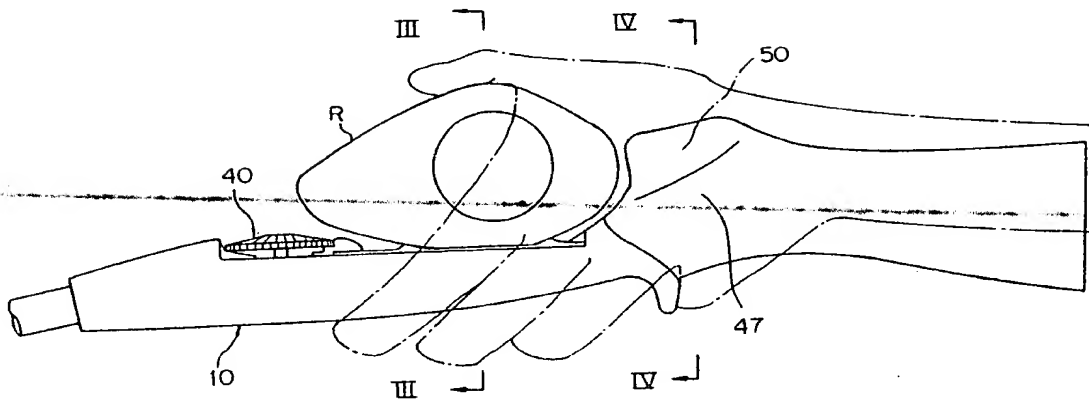
第 3 図



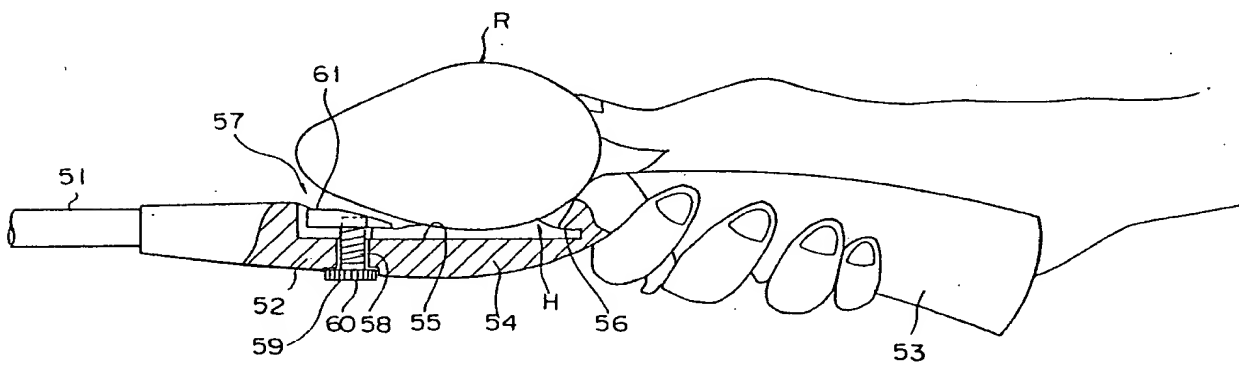
第 4 図



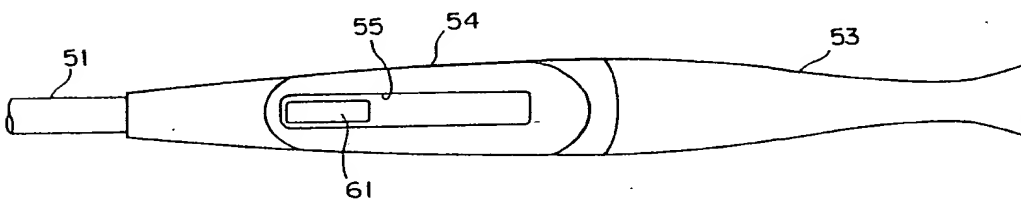
第 5 図



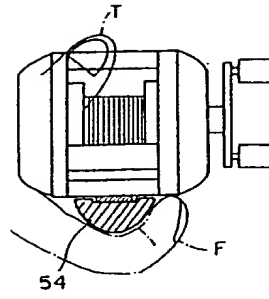
第 6 図



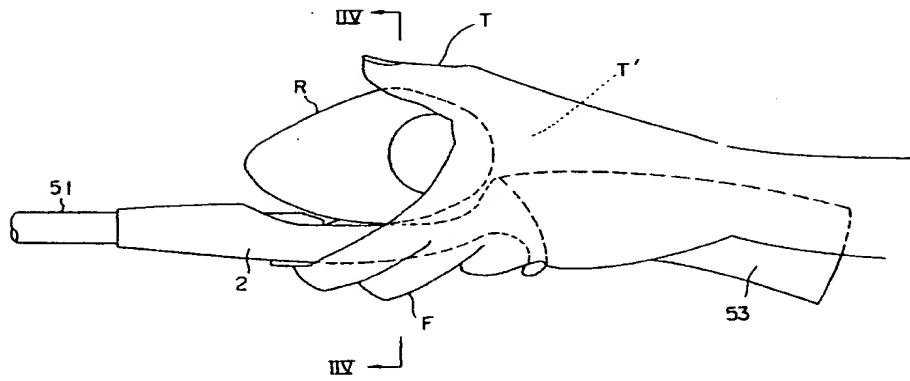
第 7 図



第 8 図



第 9 図



THIS PAGE BLANK (USPTO)